

# 手をつなごう2008

平成20年6月30日  
岡山県立東備養護学校  
支援部だよりNO. 6

## 中学校のコーディネーターに期待すること：その2

中学校現場の課題として次のお話しをしました

### 連携の問題

- ・小学校・高等学校との連携
- ・校内の通常学級・特別支援学級間の「対等な立場」での連携

### 後期中等教育・高等教育での支援の難しさ

- ・当事者は自分の苦手さを語りたがらない
- ・二次的な課題を抱えている
- ・支援のモデルがほとんどない

### 共通の課題

- 低い自己理解  
できないところばかりが強調されて自分のできる点  
がわからない
- 低いセルフ・エスティーム  
いじめられる/どうせ自分はバカでダメ人間
- 自分の属する集団内に理解者がいない  
セルフ・エスティームは集団の中でしかあがらない
- 生きる力を身につけられない  
だからますますセルフ・エスティームは下がる

### 本人達の思い

- 診断名も大事だけれど...  
どうしたらできるようになるのか、効果  
的な対策を具体的に教えて
- 理解という名の同情はいらない  
具体的な配慮が欲しい
- 親も先生も勝手にラベリングして、可能  
性を勝手に決めないで欲しい

### 何よりも一番の課題は

- 個々の生徒の認知と学習スタイルの多様性を踏まえた上で評価し、  
将来の進路を見据えた指導になっていない
- 中学までの手厚さが高校以降の生きるスキルにつながっていない

セルフ・エスティーム  
= 自尊心

### 居場所を失った当事者たちは？

- 不登校・ひきこもり
- 摂食障害・自傷・依存症・うつ状態
- ニート、若年ホームレス
- いじめ、非行等反社会的行動  
など、二次的な課題へ  
医療費・社会保障費増加へ

発達的な課題のある人たちだけの問題では  
ありません

### 「低いセルフ・エスティーム」

昨今の子どもたちを理解する  
キーワードです

### 「あなたはあなたのままでいい」...？

- ...だけではすべての子どもは生きていけない
- 教育する目的 = 社会化  
社会のルール + 社会を生き抜くスキル
- 安定 = 就労の安定 + パートナーとのきずな

### 目指したいのは

- 知力・体力・弾力のある人に育てること
- 成長発達権を保障すること  
= 認知と学習スタイルの多様性の保障
- ニーズベースのアプローチになっているか  
常に俯瞰して考えること